

決算報告会

2022年5月19日

株式会社カインス
代表取締役社長
長津 行宏

2021年度 情報開示(1)

- | | |
|---|---------------|
| 1. 2021年3月期 決算短信(非連結) | (2021年 5月 7日) |
| 2. 役員の変動に関するお知らせ | (2021年 5月25日) |
| 3. 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)遺伝子
検出試薬の製造販売承認取得のお知らせ | (2021年 6月 1日) |
| 4. 新型コロナウイルス感染症に関する
3種類の検査試薬発売のお知らせ | (2021年 6月16日) |
| 5. 人事異動のお知らせ | (2021年 6月17日) |
| 6. コーポレート・ガバナンスに関する報告書 | (2021年 6月18日) |
| 7. 有価証券報告書/内部統制報告書/臨時報告書 | (2021年 6月18日) |
| 8. 支配株主等に関する事項について | (2021年 6月18日) |
| 9. 2022年3月期 第1四半期決算短信 | (2021年 7月26日) |
| 10. 四半期報告書(第47期第1四半期) | (2021年 8月 3日) |
| 11. 業績予想の修正に関するお知らせ | (2021年 9月27日) |

2021年度 情報開示(2)

- | | |
|---|---------------|
| 12. 2022年3月期 第2四半期決算短信 | (2021年10月26日) |
| 13. 四半期報告書(第47期第2四半期) | (2021年11月 2日) |
| 14. 自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による自己株式の買付けに関するお知らせ | (2021年11月25日) |
| 15. 自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による自己
株式の取得結果及び自己株式の取得終了に関するお知らせ | (2021年11月26日) |
| 16. 2022年 3月期 第3四半期決算短信(非連結) | (2022年 1月25日) |
| 17. 四半期報告書(第47期第3四半期) | (2022年 2月 1日) |
| 18. 第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ | (2022年 2月25日) |
| 19. 第三者割当による自己株式の処分完了に関するお知らせ | (2022年 3月14日) |
| 20. 配当予想の修正(増配)に関するお知らせ | (2022年 3月24日) |
| 21. 代表取締役の異動(追加選定)と社長交代に関するお知らせ | (2022年 3月24日) |

2021年度 情報開示

自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引
(ToSTNeT-3)による自己株式の買付けに関するお知らせ

(情報開示:2021年11月25日)

自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による自己株式の
取得結果 及び 自己株式の取得終了に関するお知らせ

(情報開示:2021年11月26日)

I 自己株式取得結果

2. 取得の内容

(1)	取得した株式の種類	普通株式
(2)	取得した株式の総数	150,000 株
(3)	取得価格	1,054 円
(4)	取得日	2021年11月26日
(5)	取得方法	東京証券取引所の自己株式立会外買付 (ToSTNeT-3)による買付け

2021年度 情報開示

第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ

(情報開示:2022年 2月25日)

第三者割当による自己株式の処分完了に関するお知らせ

(情報開示:2022年 3月14日)

1. 第三者割当による自己株式の処分概要

(1)	処分期日	2022年 3月14日
(2)	処分株式数	普通株式 230,000 株
(3)	処分価額	1株につき金1,089 円
(4)	調達資金額	250,470,000 円
(5)	処分方法	第三者割当による自己株式処分
(6)	処分先	シスメックス株式会社
(7)	処分先の持株比率・議決権比率	持株比率 5.05% 議決権比率 5.17%
(6)	処分後の自己株式数	109,656 株

2021年度 情報開示

第三者割当による自己株式の処分

2. 処分の目的及び理由

- ・シスメックスは、臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェア等の研究開発から生産、販売、サービス&サポートまでを一貫して行う臨床検査の総合メーカーとして、検体検査事業、ライフサイエンス事業、メディカルロボット事業等の、診断・治療から予防・健康管理に係る幅広いヘルスケアビジネスを国内外に展開。
- ・当社とシスメックスは、2007年10月にシスメックスが開発した全自動免疫測定装置 HISCL専用の診断薬共同開発契約締結を皮切りに、現在に至るまでHISCL用診断薬の開発・製造を通じたHISCL事業の協業関係を継続中。
- ・当社は、シスメックスが当社株式を保有し資本的なつながりを持つことにより、両社の事業拡大を目的として両社間で締結する基本合意書 及びこれに基づき別途締結する個別契約に基づき、両社の事業基盤や知見の活用並びに相互の人材交流から、免疫分野、生化学分野領域をはじめ検査分野全般にわたり両社間の業務提携を強化し、当社事業の安定化と拡大を計る。

2021年度 情報開示

配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

(情報開示:2022年 3月24日)

1. 配当予想修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、剰余金の配当についても安定的な配当を維持し、業績に応じて積極的に還元していくことを基本方針としております。

この方針に基づき、2022年3月期の利益水準、財政状態等を総合的に勘案した結果、2022年3月期の期末配当予想につきましては、前回予想の1株当たり15円から10円増配し、25円に修正することといたしました。

2. 修正の内容

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (2022年1月25日発表)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 15.00
今回修正予想	—	—	—	25.00	25.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績 (2021年3月期)	—	0.00	—	12.50	12.50

2021年度 情報開示

代表取締役の異動(追加選定)と社長交代に関するお知らせ

(情報開示:2022年 3月24日)

1. 異動及び社長交代の理由

経営体制の一層の充実と強化を図るため、代表取締役を1名追加選定し、2名体制とするものです。

2. 新旧代表取締役社長の氏名及び役職名

氏 名	新 役 職	現 役 職
長津 行宏	代表取締役社長	常務取締役
上地 史朗	代表取締役会長	代表取締役社長

3. 新任代表取締役社長の略歴 : (省略)

4. 就任予定日 : 2022年4月1日

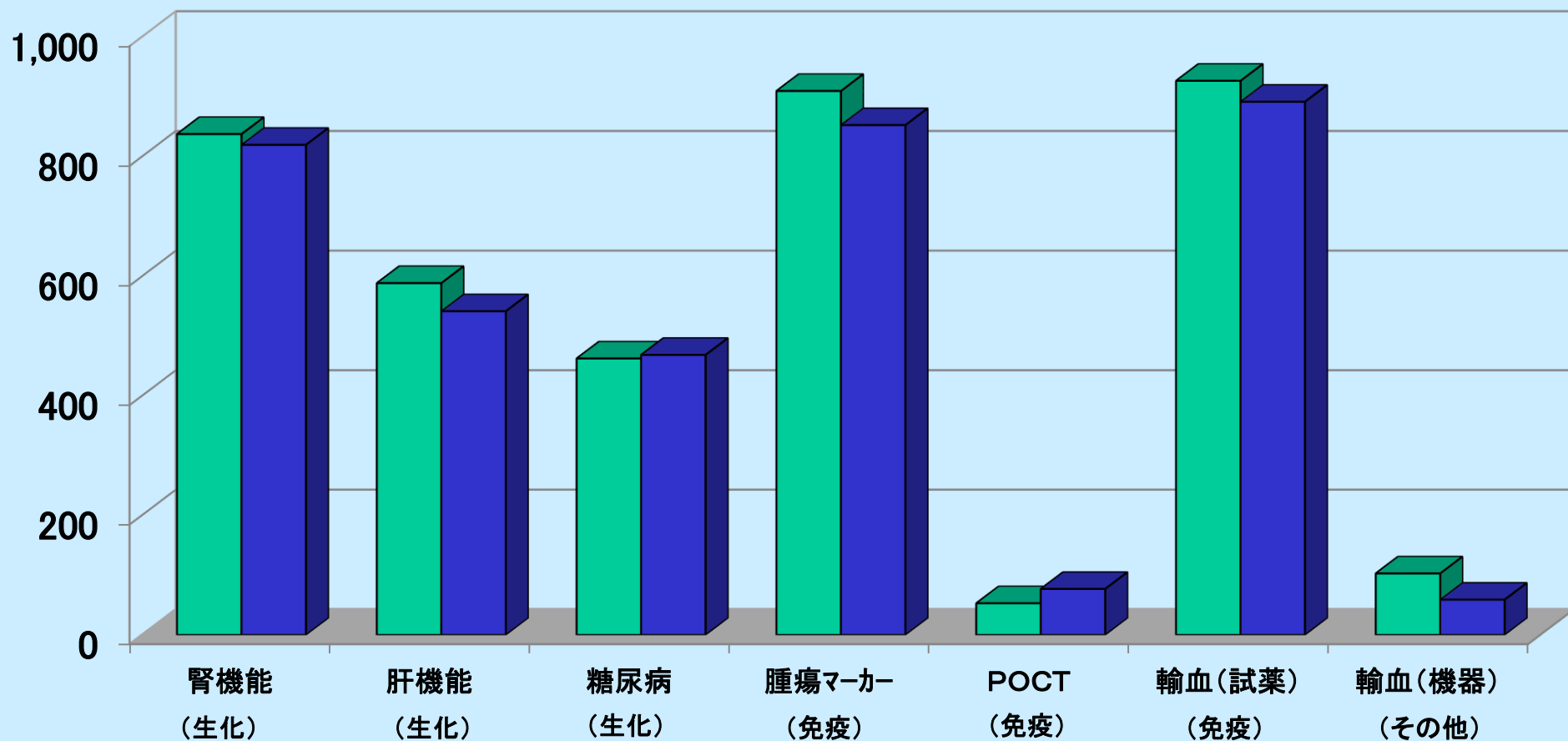
2021年度決算

2021年度決算

売上高(主要検査分野別)

(単位:百万円)

■ 予想 ■ 実績



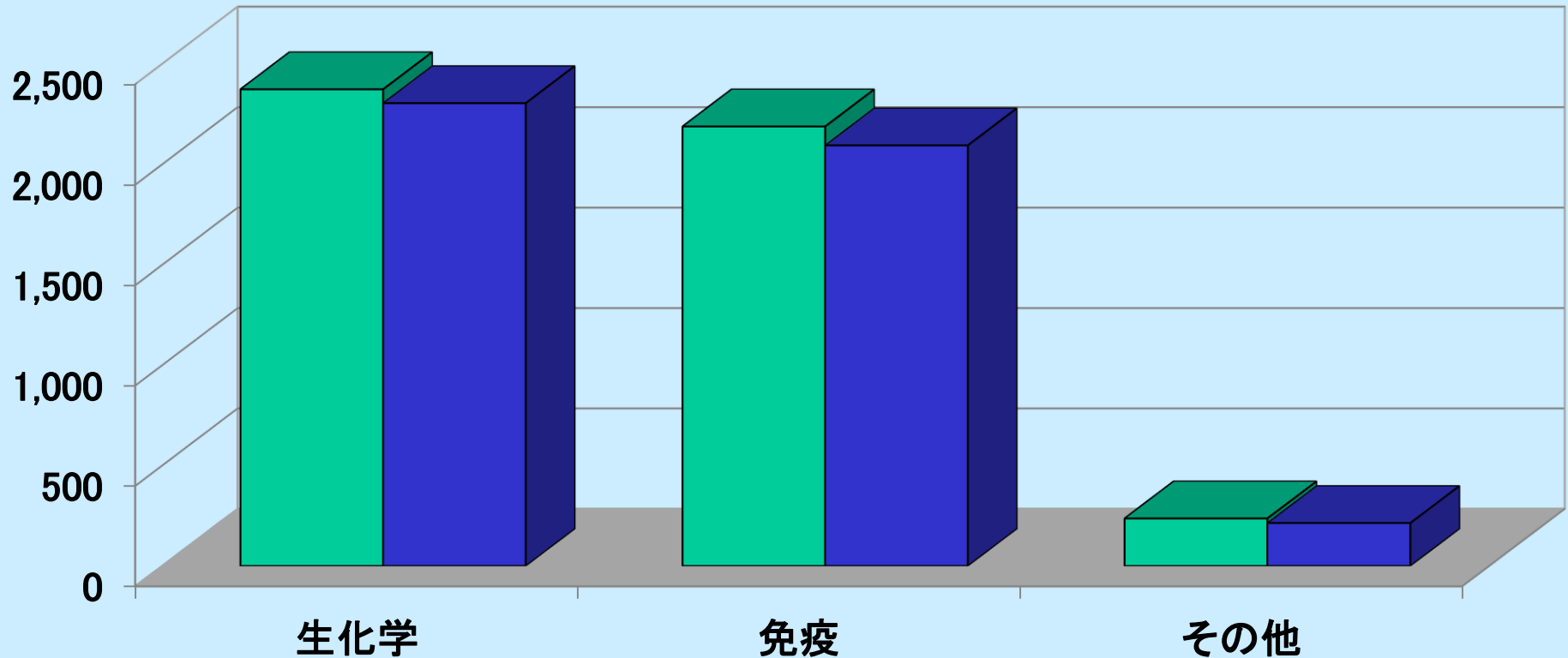
2021年度決算

売上高(検査分野別)

(単位:百万円)

■ 予想 ■ 実績

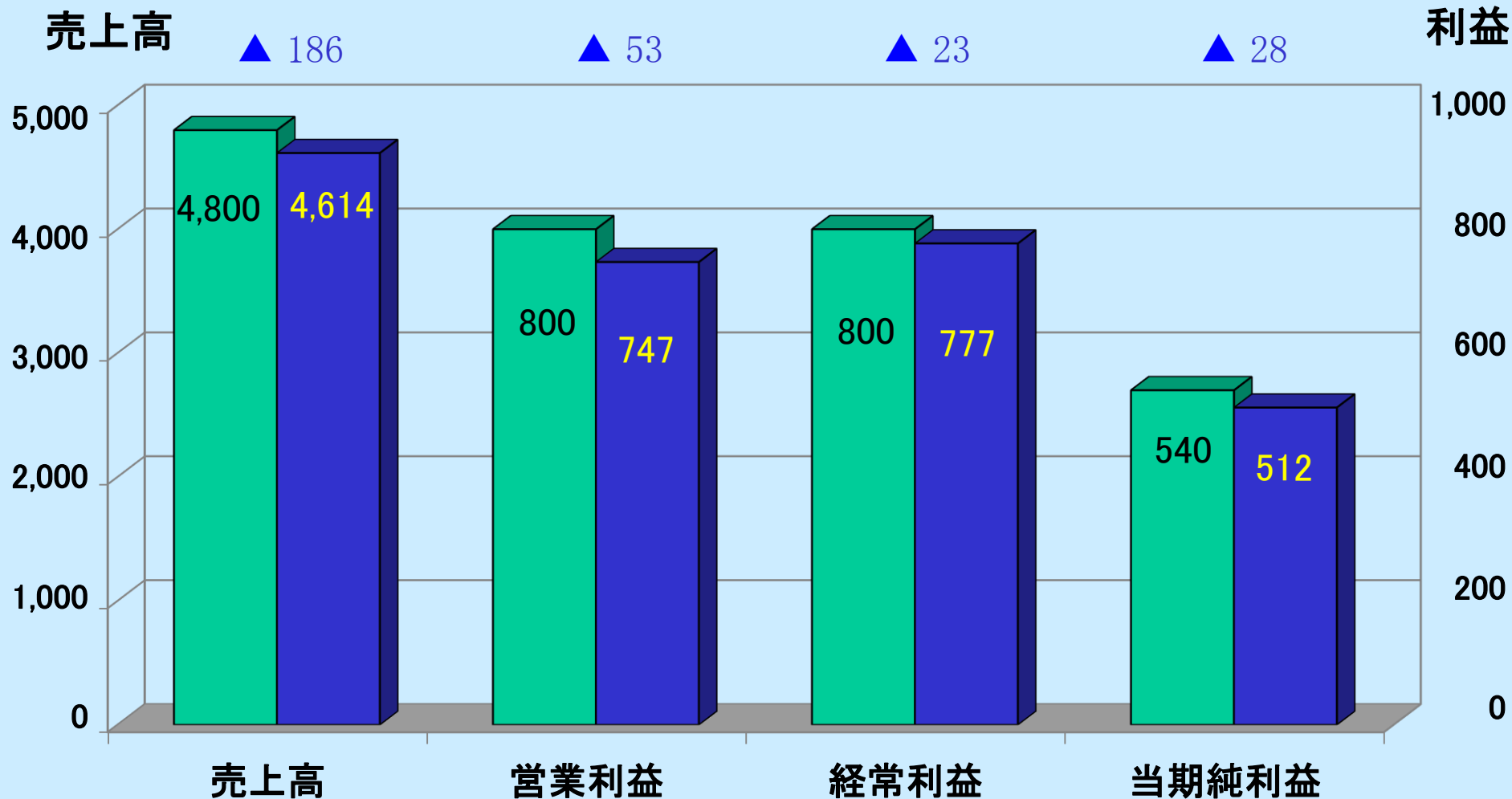
予	想	: 4,800
実	績	: 4,614



2021年度決算

■ 2021年度予想 ■ 2021年度実績

(単位:百万円)



2021年度決算

(単位: 百万円)

		2021年度 予想	2021年度 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,140 (86.3%)	3,973 (86.1%)	▲167	▲4.0
	商品	660 (13.7%)	641 (13.9%)	▲19	▲2.9
	計	4,800 (100.0%)	4,614 (100.0%)	▲186	▲3.9
営業利益		800	747	▲53	▲6.6
経常利益		800	777	▲23	▲2.9
当期純利益		540	512	▲28	▲5.2

2021年度の課題と対策(下期課題)

1. コロナ禍の現状打破に向けて
2. 生化学試薬
3. 輸血項目の拡大
4. 遺伝子治療関連: 抗AAV抗体測定 ELISAキットの可能性
5. 東京証券取引所 市場区分見直しへの対応

2021年度の課題と対策(下期結果)

1. コロナ禍の現状打破に向けて 課題)

- 1) 病院訪問規制、徐々に緩和
- 2) POCT市場縮小

対策)

- 1) 訪問面談とWeb面談を融合した効率的情報提供
- 2) 代理店との協調強化
(17代理店向けPOCTプロモーション企画)
- 3) 顧客ニーズの新規テーマを継続探索

⇒Web面談、Web製品説明会の実施

顧客へのコール回数をコロナ前までの9割以上確保

POCTプロモーション:対象1,063施設、前年比154%

2021年度の課題と対策(下期結果)

2. 生化学試薬

1) 重点項目シェアUP (CRE、UN、UA、IP、Ca、Mg、GL、TP、ALB)

- ・大学病院、400床以上施設を中心に重点拡販

目標: 100施設、300項目

⇒新規22施設、56項目採用

(上期: 7施設、15項目, 下期: 15施設、41項目)

- ・機器メーカーと協業した情報活動開始

目標: 2,000施設 (現在 1,918施設)

年間売上: 1,200M¥ (2020年度 1,074M¥)

⇒2022年3月末時点: 1,949施設

年間売上結果: 1,125M¥

2021年度の課題と対策(下期結果)

2. 生化学試薬

1) 重点項目シェアUP (CRE、UN、UA、IP、Ca、Mg、GL、TP、ALB)

- ・CRE: トップシェアの奪取

目標: 1,000施設 (現在 754施設)

※マルチキャリブレーターのフル活用

⇒2022年3月末時点: 783施設

2021年度の課題と対策(下期結果)

3. 輸血項目の拡大

1) 機器拡販

- ・ 機器使用施設: 400施設へ設置

⇒ 既存360施設+新規18施設設置(合計378施設)

(上期: 7施設, 下期: 11施設)

- ・ 基幹施設中心に新規設置及び既存施設の確実な更新
目標: 新規20施設、更新対象49施設

⇒ 施設状況別に運用提案実施

提案数: 52施設

採用数: 21施設(内3施設更新)

継続数: 21施設

設置5年経過施設向けにリモート機器見学の推進

2021年度の課題と対策(下期結果)

3. 輸血項目の拡大

2)顧客満足度の向上

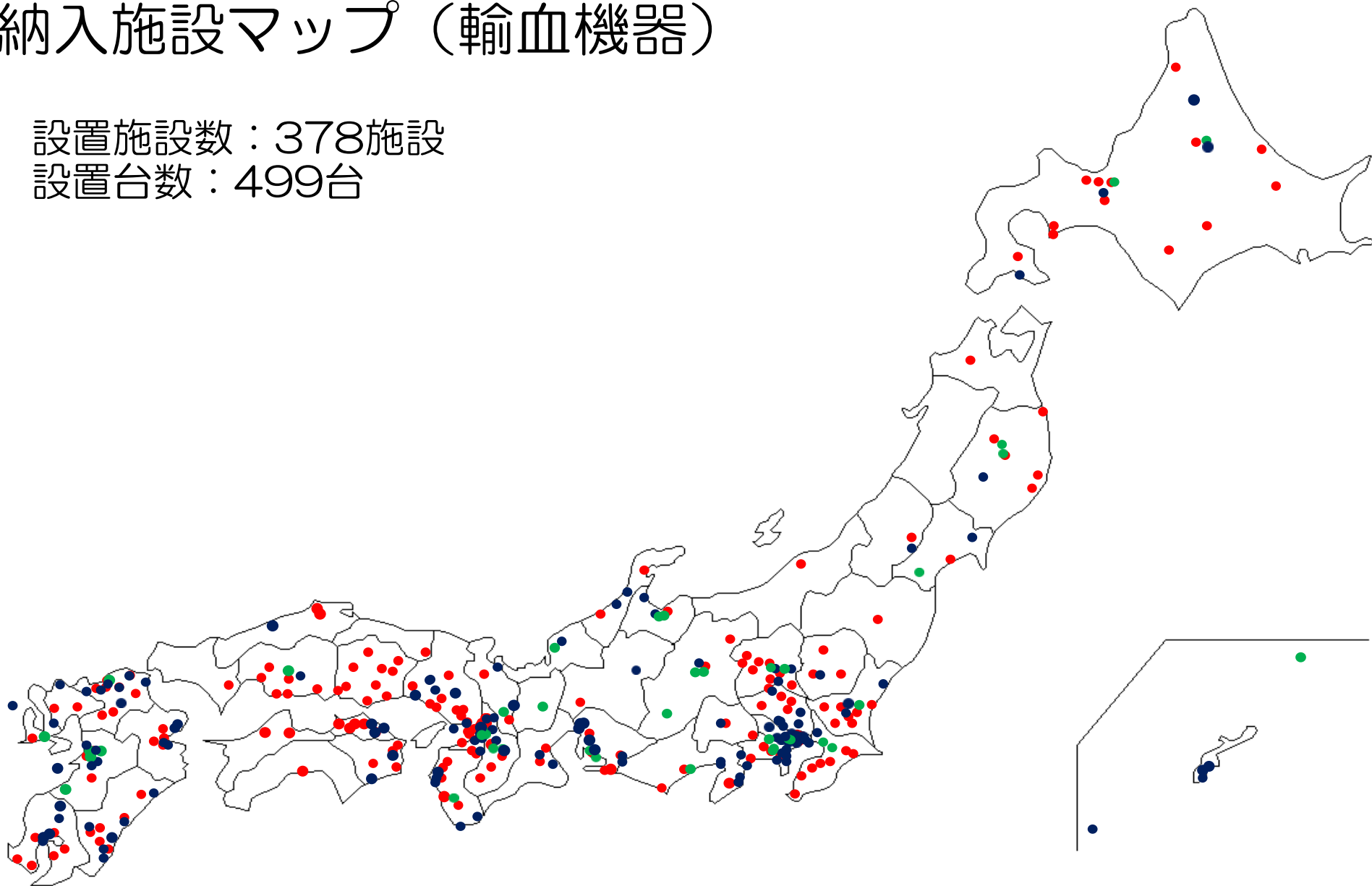
- Webセミナーの継続配信(12回)
- リモート機器見学の推進(30施設)
⇒ Webセミナー: 12回実施(平均300名以上)
リモート機器見学: 25施設実施
- 11月サーベイ実施
⇒ 計301施設が参加
- 学術資料の定期的配布(年4回)
⇒ Bloodニュース4回発行
(酵素法、乳児の輸血検査、
赤血球凝集反応、ABO血液型とCOVID-19)



納入施設マップ（輸血機器）

設置施設数：378施設

設置台数：499台



2021年度の課題と対策(下期結果)

4. 遺伝子治療関連：抗AAV抗体測定 ELISAキットの可能性

1) 遺伝子治療研究所(GTRI)との連携

- ・ 研究員派遣 (2020/10 – 2022/3): 治療薬開発・製造に係る知見・経験
- ・ 共同開発: 抗体測定キット原料(AAVベクター)の品質検査

2) 診断薬の開発

- ・ G社治験用抗体測定試薬の製造・提供(AAV2)
- ・ 異なるAAVベクター(AAV.GTX, AAV.GT5)用の抗体測定試薬の開発

2021年度の課題と対策(下期結果)

5. 東京証券取引所(東証/JPX) 市場区分見直しへの対応

- ・スタンダード市場を選択
- ・2021年10月取締役会決議から11月12日区分申請
- ・コーポレートガバナンス(CG)コード 83原則全適用となり
CG報告書を更新*、2021年11月26日付で東証へ届出

*Comply: 61 原則, Explain: 22 原則

[参考] 2022年4月4日時点の東証各市場区分の上場会社数

<u>新市場区分</u>	<u>上場会社数</u>
プライム市場	: 1,839 社
スタンダード市場	: 1,466 社 (旧一部338社、JASDAQグロース1社)
グロース市場	: 466 社
計	: 3,771 社

2022年度の課題と対策

1. 市場変化に順応した新営業スタイルの確立
2. 生化学試薬
3. 輸血項目の拡大
4. 新規商品
5. 原価・経費低減の取り組み

2022年度の課題と対策

1. 市場変化に順応した新営業スタイルの確立

課題)

- 1) 病院訪問規制の継続
- 2) 市場ニーズの変化

対策)

- 1) 訪問面談とWeb面談を融合した効率的情報提供
- 2) 顧客の問題解決を目的としたソリューション営業
- 3) 人間ドック、健診施設の開拓

2022年度の課題と対策

2. 生化学試薬

1) 重点項目シェアUP (CRE、UN、UA、IP、Ca、Mg、GL、TP、ALB)

- ・大学病院等基幹施設を中心に重点拡販

目標: 100施設、300項目

- ・機器メーカーと協業した提案活動

- ・CRE: トップシェアの奪取

目標: 1,000施設 (現在 783施設)

目標: 2,000施設 (現在 1,949施設)

年間売上: 1,200M¥ (2021年度 1,125M¥)

2022年度の課題と対策

3. 輸血項目の拡大

1) 機器拡販

- 機器使用施設: 500施設へ設置
- 基幹施設中心に新規設置及び既存施設の確実な更新
全自動機目標: 新規15施設、更新対象10施設

2) 顧客満足度の向上

- Webセミナーの継続配信(1回/月)
- アフターフォロー体制の強化



2022年度の課題と対策

4. 新規商品

課題) 新商品の市場導入と拡販

- 1) 免疫(ラテックス) : 抗H.pylori抗体
- 2) 遺伝子(qSTAR法): 新型コロナウイルス

対策) 商品特性の理解と効果的な情報提供

- 1) 標準法としての位置づけ(抗H.pylori抗体)
- 2) 加熱不要・直接増幅等簡易性アピール(qSTAR法)

ルミラ・SARS-CoV-2 RNA STAR Complete



2022年5月発売予定

製造販売業者： ルミラ・ダイアグノスティクス・
ジャパン株式会社

販売業者： 株式会社カインス

測定法 qSTAR法 (新しい核酸増幅法で製造販売元が特許取得済)

- 特徴
- ① **RNA抽出工程なし** (加熱不要、試薬添加だけのRNA抽出)
 - ② **核酸増幅20分** (54℃での酵素反応で1本鎖に、61℃での酵素反応で増幅)
 - ③ **汎用のリアルタイムPCR装置で測定** (専用機器不要)

核酸検出の簡素化と迅速化を実現しました

2022年度の課題と対策

5. 原価・経費低減の取り組み

1) 新自動充填機の導入(笠間工場)

- ・ 完成品設置・稼働開始： 2021年 7月
- ・ 既存充填機以上の機能改善、処理速度向上
- ・ 人的負担・ミスの軽減 及び 能率アップ・加工費低減効果

2) 配送費の削減(業務・配送センター)

- ・ 配送手段、資材等の全面的な見直し
- ・ 効率化の継続

1) 新自動充填機(全体像)



1) 新自動充填機：既存機との比較

性能	既存充填機 (ソリスト)	新規 充填機
処理能力	8 - 10 本 / min	15 -20 本 / min
適用容器品種	15 品種	17 品種
付属部品の自動供給	×	○
付属部品の自動挿入	×	○
充填前後の重量測定	△	○
充填量異常の自動検出	×	○
キャップ締トルク値管理	△	○
充填量、トルク値のデータ化	×	○

1) 新自動充填機：既存機との比較

性能	既存充填機 (ソリスト)	新規 充填機
処理能力	8 - 10 本 / min	15 -20 本 / min

適用

新自動充填機：特徴 及び 導入効果

- (1) 機能改善(容器 部品の自動供給・挿入)
- (2) 処理速度の向上(約2倍)：現行10本 → 20本/min
 - ・特殊容器対応, 中栓・キャップ・付属部品の自動供給, チムニー自動装填
 - ・充填重量測定・自動補正, キャップの締めトルク検査

人的負担・ミスの軽減 及び 能率アップ・原価(加工費)低減が期待される

 - ・完成品設置・稼働開始： 2021年 7月
- (3) 2021年度導入効果：
 - 充填工程能率の改善, 加工費低減 (作業時間20%短縮)
- (4) 2022年度以降： 稼働率アップ、導入効果検証の継続

2022年度の課題と対策

5. 原価・経費低減の取り組み

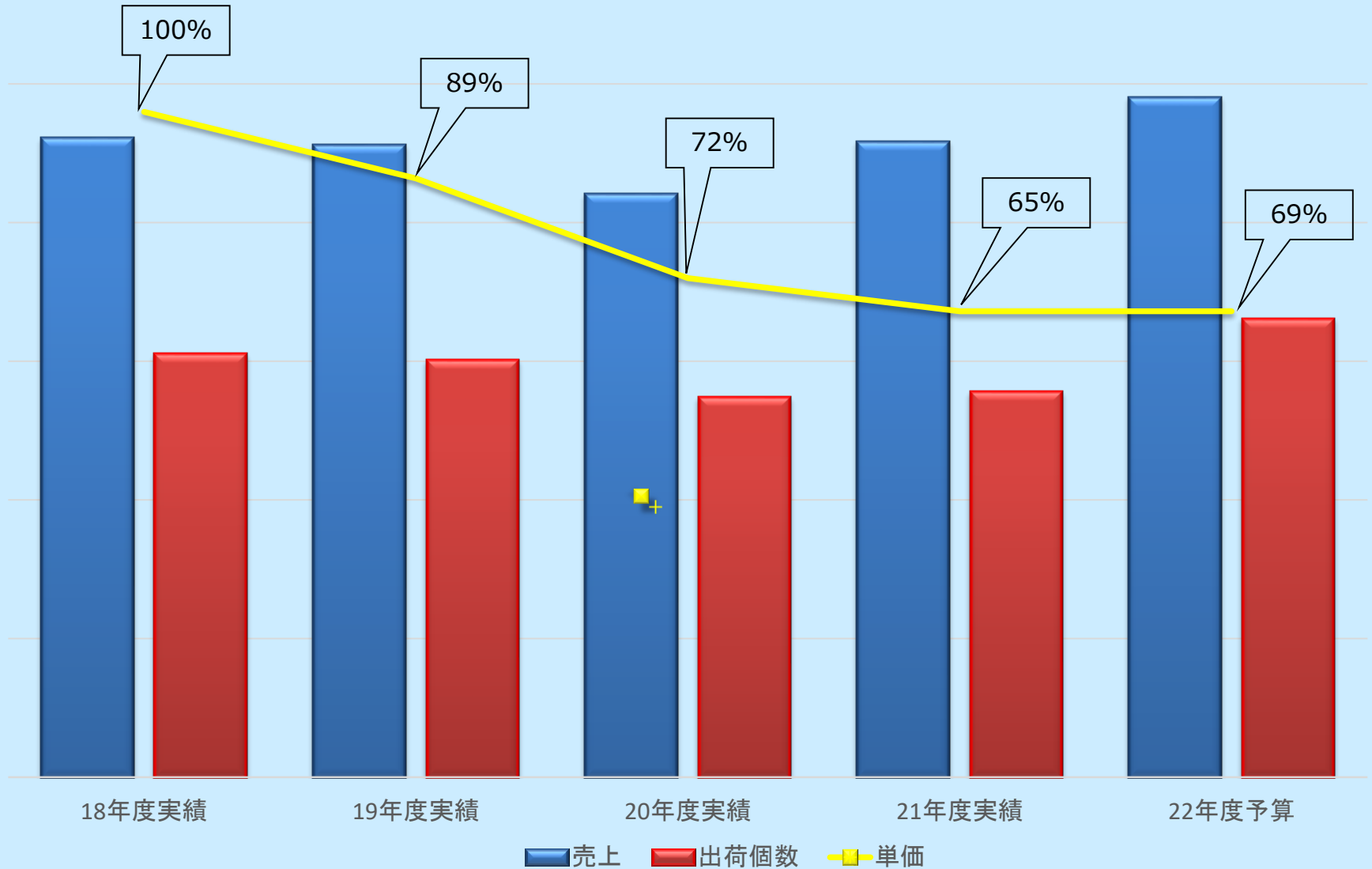
2) 配送費の削減(業務・配送センター)

配送方法の見直しと対策:

- ・チャーター便の使用見直し
- ・代理店の出荷回数適正化
- ・発送資材の見直し

削減効果: 配送単価35%減
(2021年実績・2018年比較)

2) 配送費の削減



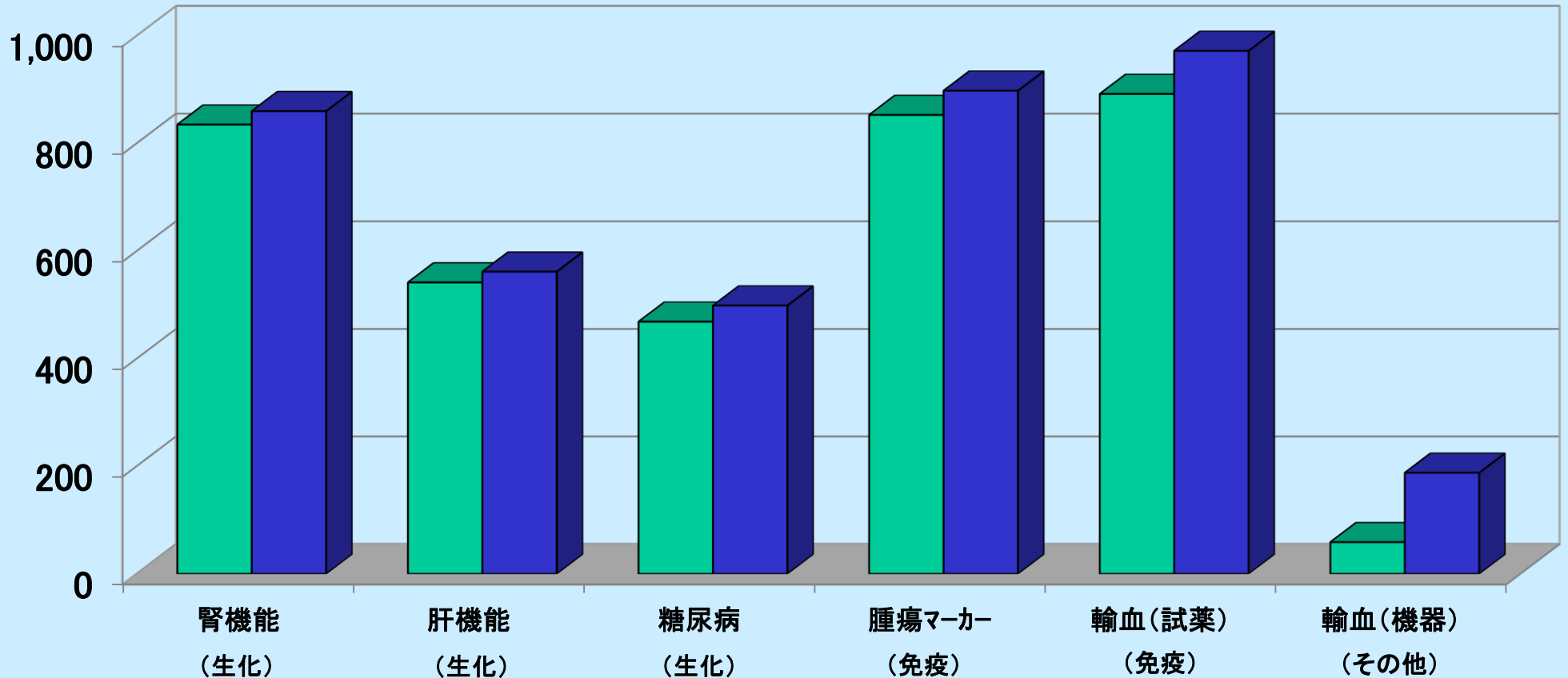
2022年度予想

2022年度予想

売上高(主要検査分野別)

(単位:百万円)

■ 2021年度実績 ■ 2022年度予想



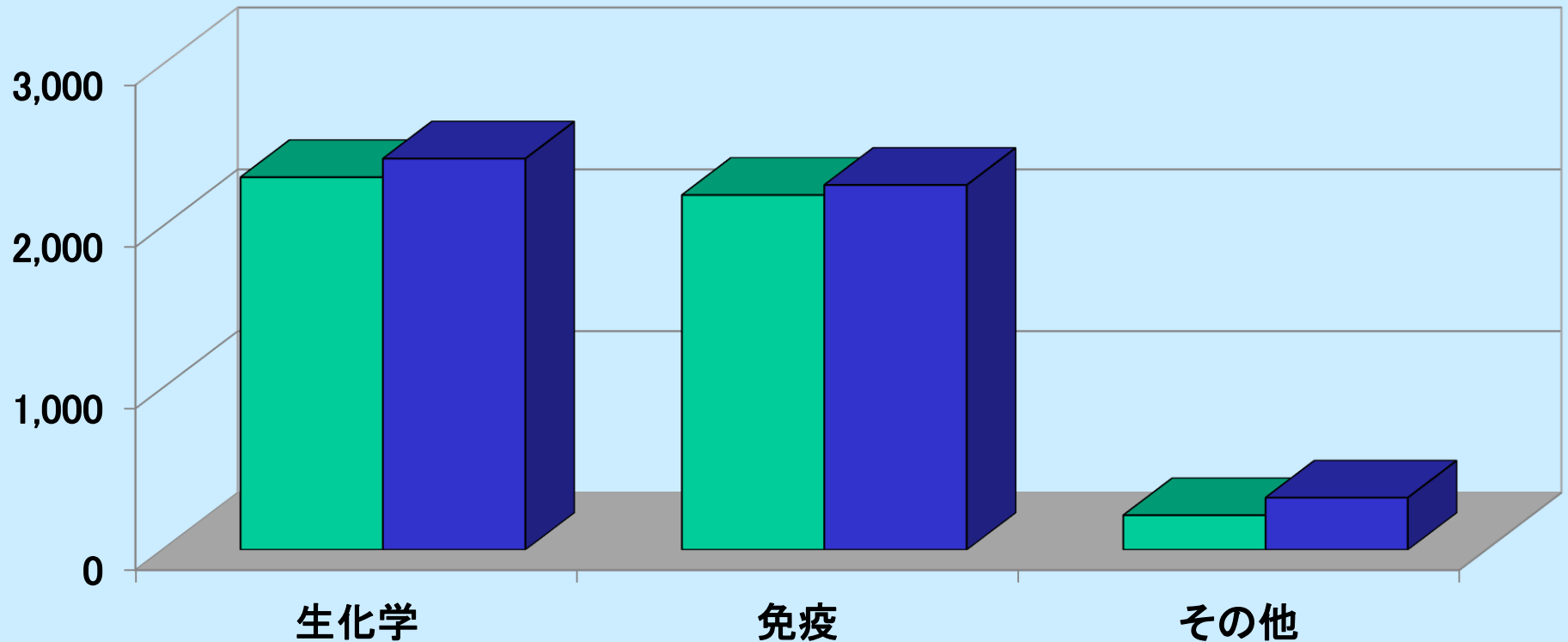
2022年度予想

売上高(検査分野別)

(単位:百万円)

■ 2021年度実績 ■ 2022年度予想

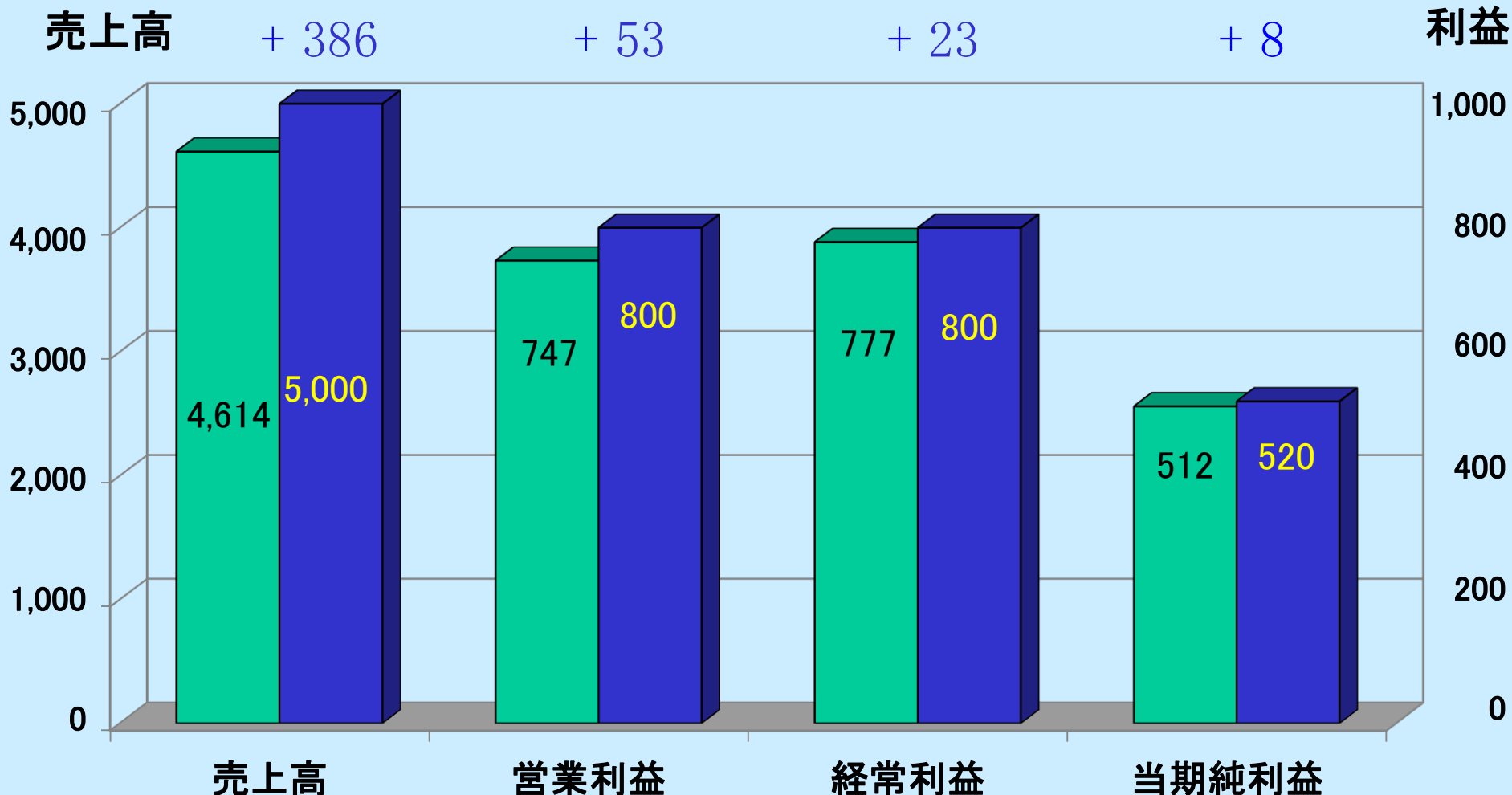
実	績	: 4,614
予	想	: 5,000



2022年度予想

■ 2021年度実績 ■ 2022年度予想

(単位:百万円)

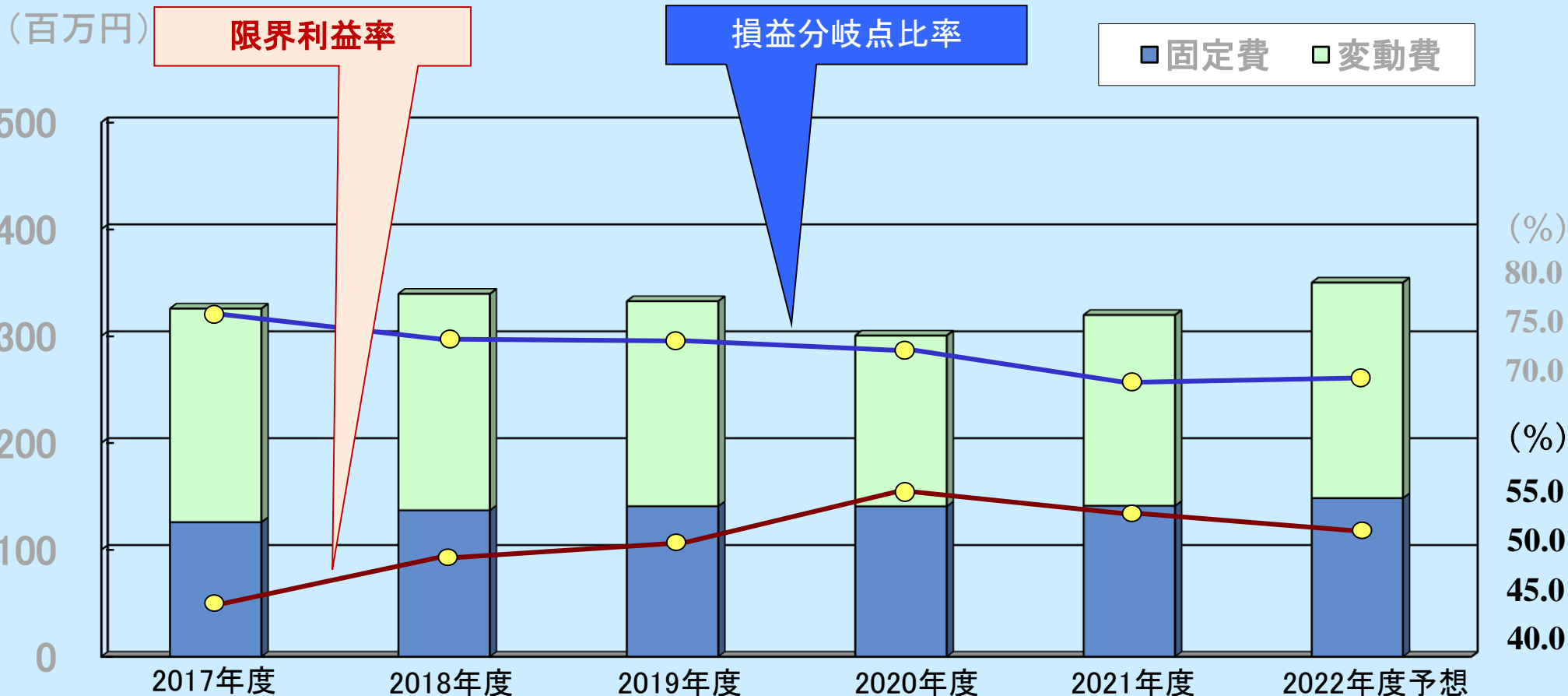


2022年度予想

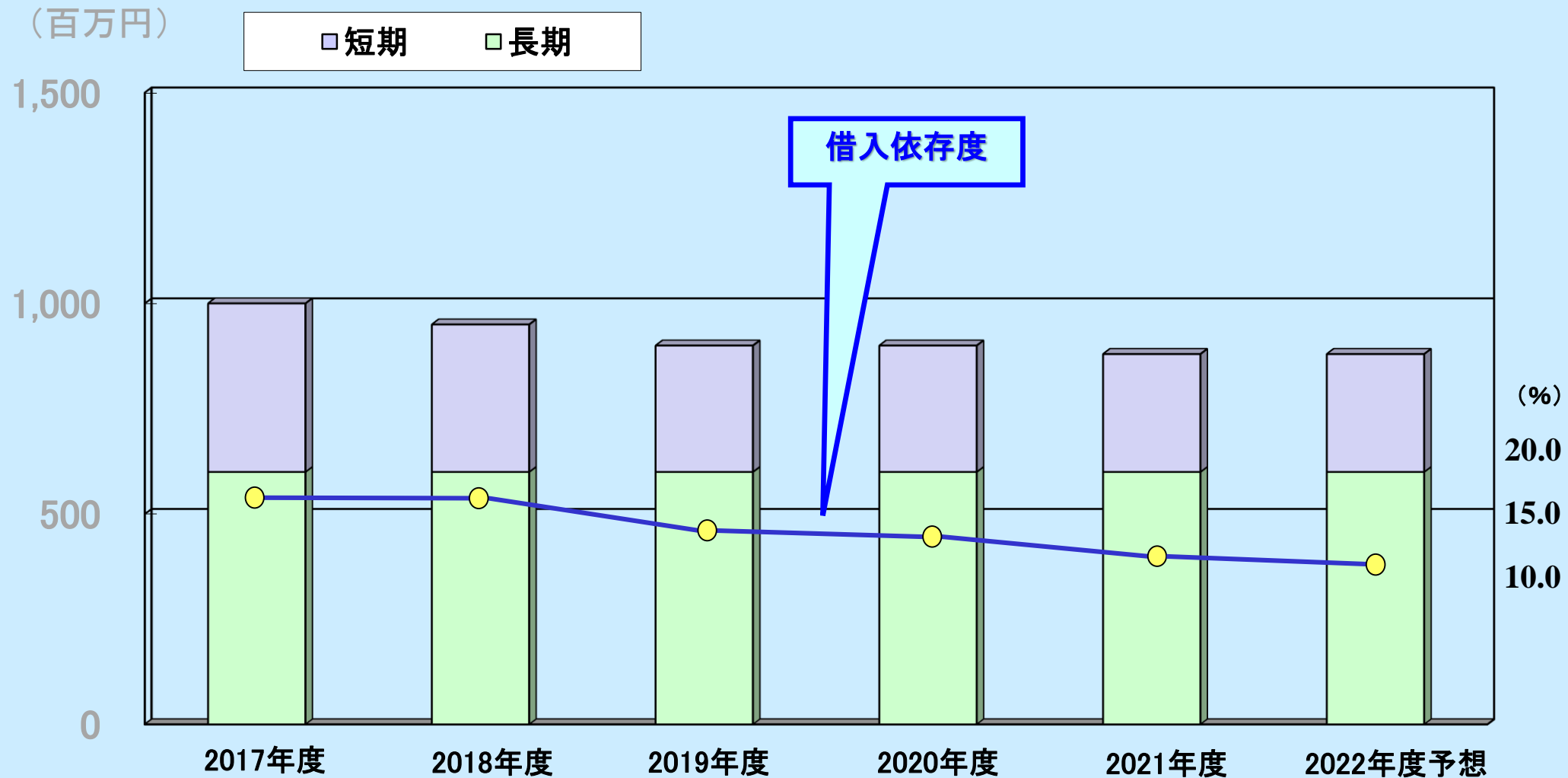
(単位:百万円)

		2021年度 実績	2022年度 予想
売上高	製品	3,973 (86.1%)	4,335 (86.7%)
	商品	641 (13.9%)	665 (13.3%)
	計	4,614 (100.0%)	5,000 (100.0%)
営業利益		747	800
経常利益		777	800
当期純利益		512	520

損益分岐点の推移



有利子負債の状況



Creative Power & Innovation
Creative Power & Innovation

KAINOS
KAINOS LABORATORIES, INC.